地形の変遷

古代から、半田山以南児島に至るまで、一面の海ではなく、旭川等の河川からの土砂の流失にともなう沖積で、海面は入り江状を形成し、時には東、時には西、或いは東西に分流して、河口に注がれていたと推定される。旧河道調査から、東寄りには、龍ノ口山に沿って、祇園のあたりから東進して、四御神辺りから南進大多羅と中川町の間の、当時の所謂石間入り江に注がれていた。

このことは、宝永6年(1709年)の高木大亮軒の書「和気絹」には、旭川は中島村から巽(東南)の方に流れて森下の裏より今の川筋へ流れ出たり、とあり。内海への出口が中川村とも記している。

また、池田家文庫にある、「上道郡絵図」にも多くの川筋がみられる。

和名抄に、備前の国府は御野郡に属するとある。

古来から国郡の堺は山や川(河)で分けられていた、中島村史によると、中島村・今在家村・段原村・祇園村・国庁宮村・中井村の西半分。荒井村の西半分は、御野郡に属すとあり、その東を旭川本流が流れていたことを物語っている。

また文明3年の吉備津神社の古記録に、「御野郡之内中島御野之金伽藍」とあり、当時中島は御野郡であったことがうかがえる。

北の龍ノ口丘陵と南の操山丘陵の間には、洪水により、幾筋もの流れとなり太い流れは、東南から、年を経るにしたがって、次第に西寄りに流れ、戦国時代には真南へと向きをかえている。

「よみがえる岡山城下町(片山新助書一山陽新聞社発行)」では、暴れ川として、池田家文庫の上道郡絵図の解説で、絵図には「ふけ」「砂山」が各所にえがかれている。「ふけ」は足が深く入る深田のことである。

絵図の書入れには、例えば次のようである。

①このふけ5～6寸足入る。長さ7町、横50間、関村の前1町ばかりのうち所々沼穴あり。

②牛入らず長さ1町、横40間

③この砂山、長さ百間、横七間半、高さ二間。

と、解説している。

この解説からも、龍ノ口山と操山の間は、旭川の幾筋もの流れが、内海に注いでいたことが、うかがい知れる。

天正年間　宇喜多秀家岡山城を築くにあたり、旭川の河道を変え城に水を引き入れ城の守りとしたことから、現在の河道となった。

古代からの河道図

海に近い百間川米田遺跡では、物資を運ぶ船を通すための運河と考えられる深い堀が集落を廻っており、また、集落の北縁を流れる川に、全長40m幅3m前後の橋が架けられるなど大掛かりな河川土木工事により形成された港町が考えられる。　　－ 古代吉備文化センター発行「発掘調査から見た吉備の歴史」より －

中原村

起源

古代から中世、龍ノ口山麗に沿って流れる旭川右岸、金山・笠井山の山麗に位置した集落と考えられる。

備陽記(1721年編纂)は、中原新田村として次のように記している。

中原新田村　　此村古ハ　中島新田村ト唱フ

Ｉ　此村川ノ中島ナリ岡山上出石町口迄道程廿九町　御朱印高外ナリ

Ｉ　高四百三十五石四斗八合

Ｉ　家数三十二軒

Ｉ　田畠畝廿二町九反三畝一歩半

Ｉ　男女三百廿人

Ｉ　村東川向ハ上道郡段ノ原村祇園村也西南ハ大川北モ大川向ハ川本村ナリ

Ｉ　猟船三艘　鮎ヲ取ナリ

と記述している。

備陽記が編纂されたころ、既に、川中島となって中原新田村として紹介されているが、川を隔てた微高地で新田開発が行われ、中島新田村として、中島村から独立、その後、中原新田村と改名している。

中原新田村から中原村

備陽記(1721年)では、中原新田村として紹介されているが、岡山藩主池田家の御納涼所記録(1757年)には、中原村記とあり、以後も中原村の名で記録されていることから、この頃から、中原村と唱えるようになったと推定される。

中原村から岡山市中原

御野郡牧石郷中原村として明治維新を迎え、明治4年の廃藩置県により、郡以下の行政機構がつくり変えられた。

明治22年の市町村制公布に際し、中原村は、玉柏村・畑鮎村・金山村・原村と合併し牧石村となり、御野郡牧石村中原となった。

明治33年　御野郡と津高郡が合併、御津郡牧石村中原となる。

昭和27年　岡山市に編入、岡山市中原となる

平成21年4月1日　区制施行により、岡山市北区中原となる。

歴史を物語る地名

上新田　安平開　林下　波止場　前場　上ノ原　高三　五反地　菜園畑

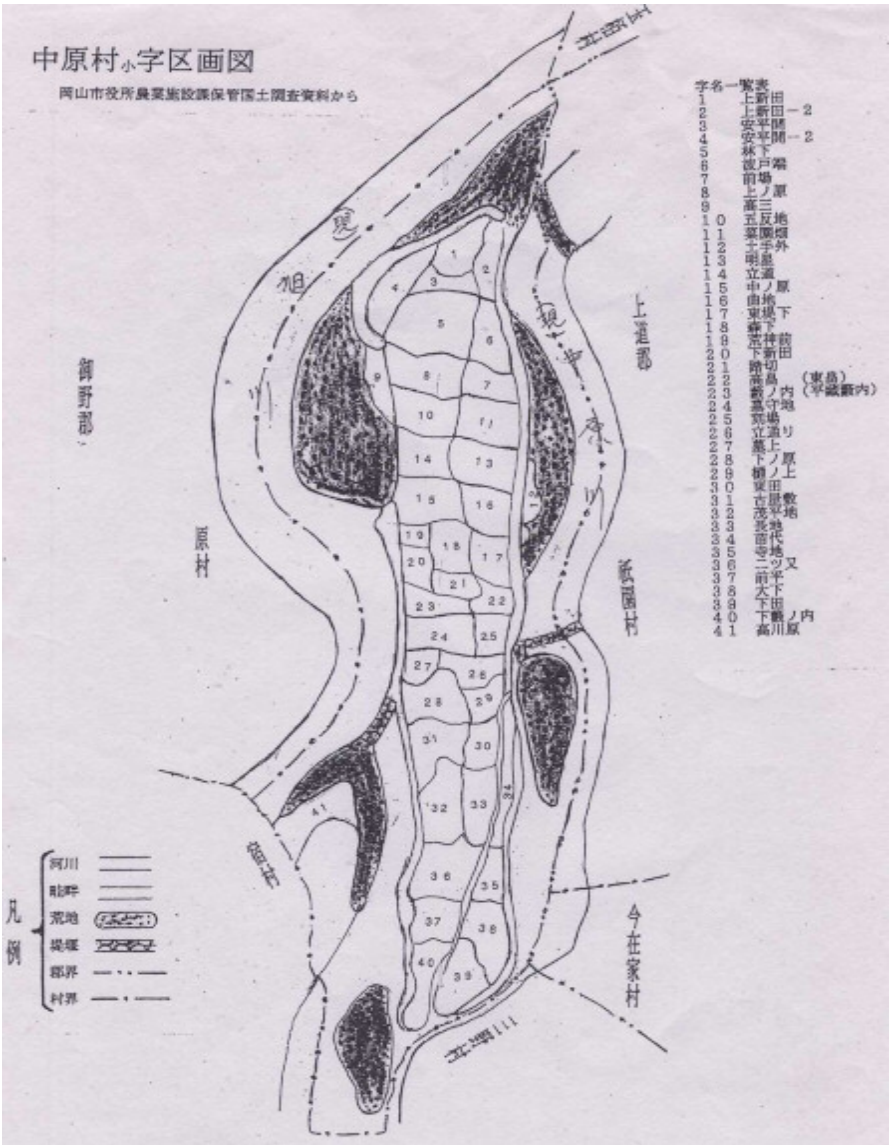
土手外　明星　立道

中ノ原　曲地　東堤下　森下　荒神前　下新田　踏切　高畠　東畠　藪ノ内

平蔵藪内　墓守地　刻場　立通り　樋ノ上

下ノ原　墓上　東田　古屋敷　茂平地　長地　苗代　寺地　ニツ又　前平

大下　下田　下藪ノ内　高川原



村治の沿革

旧藩時代、中原村は、名主を村の長とし、村落の公務の処理を行っていた。

名主の名は、初代から明治の廃藩置県まで「名主　権四郎」であった。

このことは、

宝暦7年(1757年)の岡山藩主宗政の文書

安永4年(1775年)の入道保国院(池田継政)の文書

文化14年(1817年)の岡山藩主池田斉政の文書.

文久3年(1863年)の岡山藩主池田茂政の文書

江戸中期建造とされる、原の法万寺の本堂の棟上げ札

いずれも、名主権四郎の名で記録されている。

このことから、中原村の名主は権四郎の名を継承していたことがわかる。

中原村居住者の家の系図から推察してみると、出原家の先祖であるが、洪水・焼失・転出などにより、世襲一系統で受け継がれていたかどうか確定できない。

廃藩置県後の村の長

副戸長	出原　重三郎	明治10年11月9日～明治11年12月2日
戸長	出原　　熊太	明治16年12月3日～明治16年2月15日
戸長	出原　重三郎	明治16年2月16日～明治22年7月16日
村長	出原　重三郎 （改名　正夫）	明治22年7月17日～明治34年7月16日
村長	久山　登美次	明治34年7月17日～明治35年6月9日
村長	津下　忠勝	明治35年6月19日～大正7年6月18日
村長	水田　重吉	大正7年6月19日～大正11年6月9日
村長	小野　義太郎	大正11年7月29日～大正13年6月18日 （8月18日）
村長	津下　真太衛	大正14年6月16日～昭和16年6月15日
村長	小野　義彦	昭和16年9月不祥～昭和20年9月不祥
村長	赤柏　　勲	昭和22年4月23日～昭和27年3月31日

昭和27年4月1日岡山市に編入岡山市中原となる。

岡山市編入後の区長町内会長

編入後の中原の区長・町内会長は就任年月日が詳らかでないので、先任順に氏名のみ列挙する。

藤田　嘉四郎

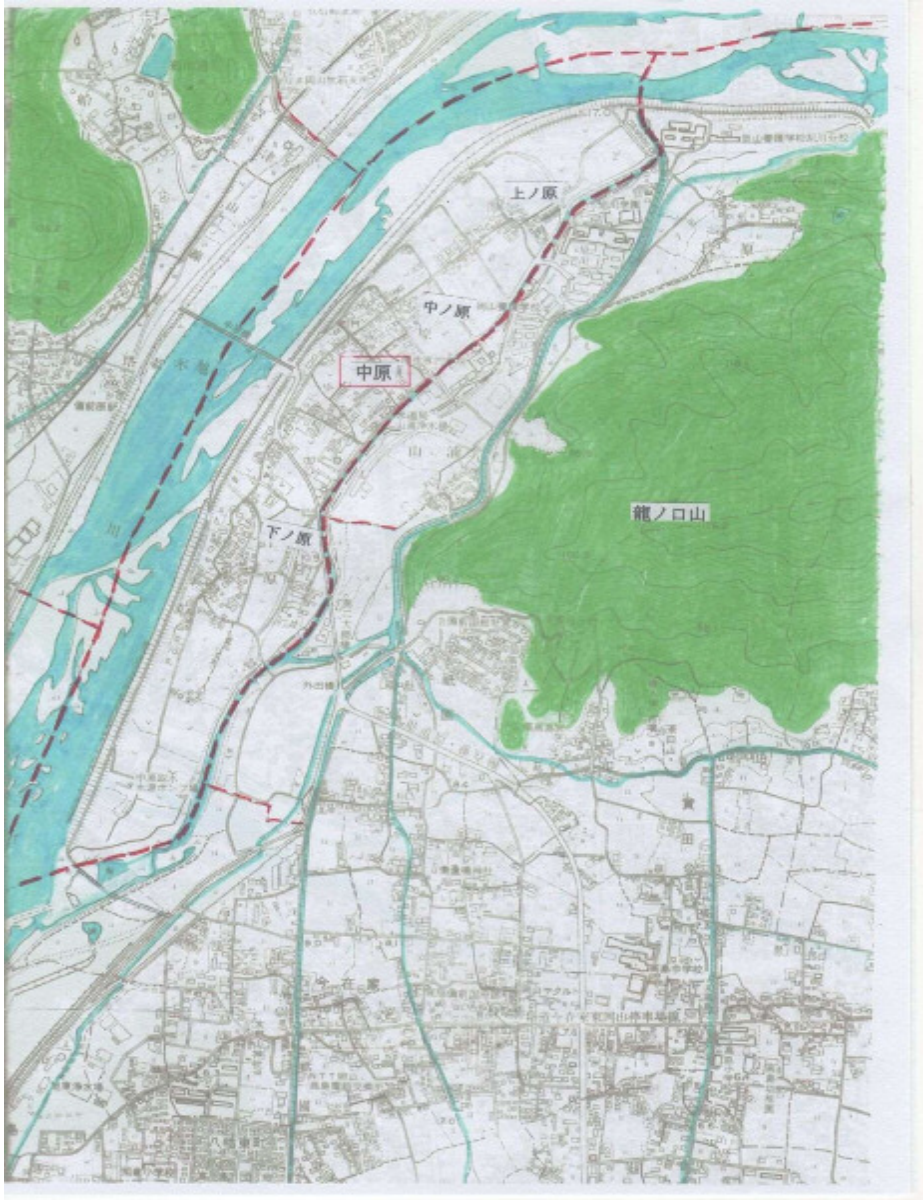
藤田　沢治

出原　三郎

佐藤　克己

藤田　俊雄

疋田　修一

内田　敬治

そして、上ノ原・中ノ原・下ノ原に代表役員をおいている。